

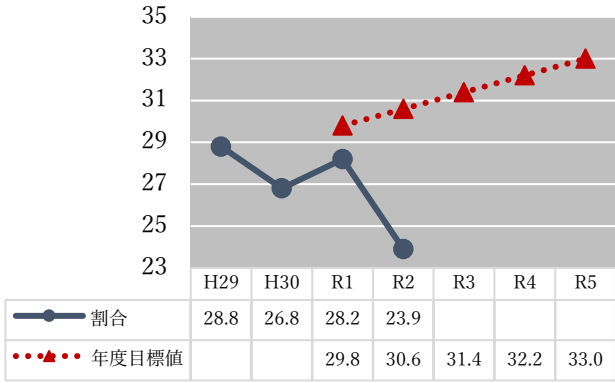
目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	25	学びを支える環境の整備		
主な取組	○ 「子ども大学」の充実に向けた支援			
	○ 多様な学習機会の提供			
	○ 人生100年時代に対応した学び直しの在り方の検討			
	○ 外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり（再掲）			
	○ げんきプラザを活用した体験活動の充実			
	○ 地域学習の推進を支える人づくり			
	○ 障害者の生涯を通じた学びの支援			
	○ 県立図書館における県民のチャレンジ支援の充実			
	○ 新しい県立図書館の検討・推進			
担当課	特別支援教育課・生涯学習推進課・文化資源課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
生涯学習を担う未来人材育成プロジェクト	758	<p>大学やNPO、青年会議所、市町村などが連携して実施する子ども大学の組織と内容を充実させるため、モデル事業を実施する子ども大学への支援を行う。その成果を各市町村に広めるとともに、各地域の子ども大学の継続・発展を支援することを通じて、生涯学習を担う人材の育成につなげる。</p> <p>○子ども大学継続・発展に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども大学実施報告書の公開 カリキュラムサポート一覧の情報提供 <p>○子ども大学推進モデル事業実施の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策のためモデル大学が開催できなかった。 	<p>特別支援子ども大学モデル事業は、該当大学が新型コロナウイルス感染症対策として子ども大学を開催しなかったため、実施できなかった。</p> <p>子ども大学の支援としては、コロナ禍の中でも感染症対策を実施した子ども大学の事例を実施報告書として情報共有するとともに、ホームページで公開した。</p>	生推
「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業 → 施策24参照				生推
青少年げんき・いきいき体験活動事業	3,632	<p>青少年が、げんきプラザの特色を生かした様々な体験活動事業に参加し、異年齢の子供や地域の大人、ボランティアなど多くの人々と交流することにより、豊かな人間性や社会性、自立心などたくましく生きる力を培い、豊かな感性を育む。</p> <p>○いきいき体験活動事業：5事業 100人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 野外活動やクラフト体験等の自然体験活動を通して、障害のある子とない子、親子や指導者と参加者などが交流する取組を実施 <p>○わくわく未来事業：7事業 52人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の適応指導教室と連携し、登校に不安を抱える児童生徒に、調理体験やレクリエーション等の集団活動を通して、社会性や自立心を育む取組を実施 <p>○のびのびチャレンジ事業：7事業 71人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> アスポート学習支援と連携し、経済的に困難な家庭の児童生徒に、体験活動を通して、協働して課題を解決する取組を実施 	<p>いきいき体験活動事業では、学習のねらいを事前に周知し、目標とする姿への見通しを持ち、学習者が意識を高くして参加し、障害の有無に関わらず、自然と溶け合いながら交流することができたことから、心のバリアフリー化を促進することができた。</p> <p>わくわく未来事業では、学びを意識した活動にするために説明等を工夫したことで、アンケートの自己評価の中で自己肯定感や自己有用感の高い回答を得ることができた。今後も適応指導教室の先生と連携し、変容を追って適切な支援をしていく。</p> <p>のびのびチャレンジ事業では、ジュニア・アスポートに通う児童生徒及び支援員を対象に、人間関係づくりプログラムを体験することを通して、参加者相互の交流や温かい人間関係を基盤とした仲間づくりを図ることができた。また、焼き板や竹とんぼ作り等の体験活動を通して、指導者や参加者同士でふれあい、交流を深めることができた。</p>	生推

障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 → 施策13参照			特教	
県立図書館サービス充実・強化推進事業	5,082	<p>オンラインデータベースの整備や資料の収集により、県民の課題解決支援のための重要なサービスであるビジネス支援サービスや健康・医療情報サービスの充実・強化を図る。</p> <p>○「女性のためのプチ起業セミナー&ライブラリカフェin埼玉県立熊谷図書館」の開催（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和3年3月9日 ・参加者数：16人 ・内容：①プチ起業に関する講義 ②講師を交えた座談会 <p>○「健康・医療情報サービス研修会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和2年10月23日 ・内容：信頼できるがん情報の見極め方、公共図書館でのがん情報サービスの取組事例の紹介 ・参加者数：市立図書館職員を含め35人 <p>○ビジネス支援関係資料（404冊）、健康・医療情報関係資料（238冊）の整備</p>	<p>専門資料の購入及び個人契約の難しい専門データベースの運用により、県内の知識・情報拠点としての機能の充実を図ることができた。また、県内市町村立図書館職員等の資質向上のため、支援を行った。</p>	生推
博物館等における主な学習プログラム	0	<p>○歴史と民俗の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり工房」通常体験メニュー 藍染めハンカチなど：8種類 開館日実施 参加者数：2,204人 ・「ものづくり工房」特別体験イベント 江戸組紐キーホルダーと眼鏡紐作りなど：4種類 6回 参加者数：41人 ・歴史民俗講座：3回 参加者数：119人 <p>○さきたま史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さきたま講座の開催：年4回 参加者数：290人 <p>○嵐山史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史講座1の開催：中止 ・歴史講座2の開催：中止 <p>○自然の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然史講座の開催：年4回 参加者数：79人 ・観察会の開催：年2回 参加者数：19人 <p>○川の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわはく研究室の開催：年10回 参加者数：520人 <p>○近代美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育普及プログラム「MOMASのとびら」の実施：年4回 参加者数：119人 <p>○文書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文書講座：年5回 参加者数：141人 ・子供体験事業 キット販売：240セット（はんこ、巻物、立体地図、和本） 子供地図教室：年1回 参加者数：17人 ・学校との連携（出前授業）：年2校 参加者数：115人 <p>○さいたま文学館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典文学講読講座の開催：年3回 参加者数：306人 	<p>各館では、多彩な体験プログラムを実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の制限や一部事業の開催中止等があったものの、校外学習等で来館した児童生徒には、体験事業や展示見学等を行い、文化芸術に触れる機会の充実を図った。また、県民の郷土埼玉の歴史や伝統文化に対する理解を深める各種講座を提供することができた。</p>	文資
県立学校学習・文化施設地域開放事業	2,184	<p>県民の主体的な学習活動への支援、地域に開かれた学校づくりの実現、県有施設の有効活用を目的として、県立学校の学習・文化施設（音楽ホール、図書館など）を土・日曜日を中心に開放する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習・文化施設開放校：9校 ・利用者数：延べ2,711人（令和2年度実績） 	<p>県有施設の有効活用を図り、開かれた学校づくりを推進し、県民に学習活動の場を提供したが、コロナ禍のため、例年より規模を大幅に縮小せざるを得なかった。</p>	生推

<p>県立学校等公開講座</p>	<p>0</p>	<p>長期休業中に県立学校等の教育機能を活用した「県立学校等公開講座」を実施する。 ○公開講座実施校数：13校 実施講座：24講座 参加者数：170人</p>	<p>学校の教育機能の有効活用を図り、県民に学習機会を提供したが、コロナ禍のため、例年より規模を大幅に縮小せざるを得なかった。</p>	<p>生推</p>
<p>ボランティア育成の推進</p>	<p>0</p>	<p>「学び合い共に支える生涯学習社会」を実現するためには、地域貢献できる人材が不可欠であることから、県内の社会教育施設において活動するボランティアの育成を推進する。 ○県立図書館 ボランティア対象研修 受講者数：413人 ○げんきプラザ ボランティア対象研修 受講者数：8人（新型コロナウイルス感染症の影響により、1事業のみ実施）</p> <p>○歴史と民俗の博物館 ・体験ボランティア登録者数：77人 ・展示解説ボランティア登録者数：68人 ・体験ボランティア研修：31回 参加者数：287人 ・展示解説ボランティア研修：中止 ・新規体験ボランティア研修：2日間 参加者数：18人 ・新規展示解説ボランティア研修：8日間 申込者数：16人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和3年度に延期</p> <p>○さきたま史跡の博物館 ・ボランティア登録者数：50人 ・ボランティア育成研修：2回 (資料送付による紙面研修) ・ボランティア定例会：1回 参加者数：35人</p> <p>○嵐山史跡の博物館 ・ボランティア登録者数：116人 ・ボランティア育成研修：中止</p> <p>○自然の博物館 ・ボランティア登録者数：21人 ・展示解説ボランティア研修会：1回 参加者数：7人</p> <p>○川の博物館 ・ボランティア登録者数：10人 ・ボランティア研修会：1回 参加者数：7人</p> <p>○近代美術館 ・ボランティア登録者数 美術館サポーター：38人 教育普及サポートスタッフ：65人 彫刻洗浄ボランティア：9人</p> <p>○文書館 ・ボランティア登録者数 文書資料保存活動ボランティア：8人</p> <p>○さいたま文学館 ・ボランティア登録者数：10人</p>	<p>県立図書館において、読書活動の推進に関わるボランティアの育成を行い、県民の自主的な活動を支援することができた。 げんきプラザでは、ボランティア研修に参加した学生を、キャンプや釣り体験等の体験活動で活用した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ボランティア研修会や活動の一部を中止した。その一方で実施時期の変更や紙面研修等の工夫をして、ボランティアの育成に取り組んだ。</p>	<p>生推</p> <p>文資</p>
<p>人材育成のネットワークの形成</p>	<p>0</p>	<p>県民の学びの機会を充実させ、学びの成果のスムーズな活用を推進するコーディネーターの育成と活用を図るため、教育事務所や市町村と人材育成のネットワークを形成する。 ○社会教育担当者会議の開催 (令和2年4月17日、Zoom開催)</p>	<p>社会教育担当者会議をZoomで開催し、担当者同士の関係を構築し、情報を共有することができた。</p>	<p>生推</p>

<p>新たな図書館サービスの検討・推進</p>	<p>0</p>	<p>県立図書館に求められる新たなサービスについて検討・推進し、県立図書館の機能の更なる向上を図る。</p> <p>○県政サポーターアンケートの実施 「埼玉県内の図書館利用について」 実施日：令和2年8月20日～令和2年8月31日 (回答数：2,207人)</p> <p>○新県立図書館在り方検討委員会の開催 ・検討委員会（令和2年7月9日、令和2年11月11日） ・作業部会（令和2年8月6日、令和2年9月10日、令和2年10月21日）</p>	<p>県立図書館に求められる新たなサービス等について局内における検討を進めたことで、新しい県立図書館の役割と機能を整理し、今後の在り方検討につなげることができた。</p>	<p>生推</p>																							
<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●1年間に生涯学習活動に取り組んだ人の割合（％） 〔出典：埼玉県県政サポーターアンケート〕</p> <table border="1" data-bbox="533 913 1157 1048"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 割合</td> <td>67.7</td> <td>67.9</td> <td>69.8</td> <td>67.8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●●● 年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>69.0</td> <td>70.0</td> <td>71.0</td> <td>72.0</td> <td>73.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 生涯学習活動をしなかった人のうち21.9%（複数回答）が「新型コロナウイルスの影響」と回答している。また、緊急事態宣言もあり公民館等での活動が困難になっていたことが年度目標を達成できなかった要因と考えられる。 オンライン講座などを実施している事例を情報発信し、生涯学習活動をしやすい環境を目指していく。</p>			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8				●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0	<p>生推</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																				
● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8																							
●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0																				
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>年代やニーズに合致するように、様々な学びの機会やツールの提供がなされている。これらを上手に利用することで、高度な知識意欲をも満たしてくれる内容である。図書館の新たなサービス展開の検討が進められており、デジタル化の進展も反映していただきたい。公開講座や博物館等での学習プログラムは、様々な媒体を通じ、なお一層PRしていただきたい。</p> <p>生涯学習社会の実現に向け、ボランティア人材の育成は重要課題である。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動が制限されたが、人材育成の流れを止めることなく、紙面研修など、方法を工夫しながら可能な範囲で着実に実施できた。また県立図書館における企業支援セミナーや「健康・医療情報サービス研修会」の開催は、中教審答申（2018年）に示された、今後の社会教育施設に求められる役割のうち、図書館について「他部局と連携した個人のスキルアップや就業等の支援、住民のニーズに対応できる情報拠点」と述べられていることに迅速に対応した事業であり大いに評価できる。更なる推進に期待したい。</p>		<p>特教</p>																								
<p>今後の取組</p>	<p>引き続き各特別支援学校において、芸術家等を招き、生徒に直接実演・講演等を行うことにより、障害のある子供たちの生涯学習を推進していく。</p> <p>引き続き、県立学校等での公開講座や学習、文化施設地域開放事業を実施し、県民に学ぶ機会を提供する。なお、講座や事業については「彩の国だより」など活用可能な媒体を最大限活用して、県民への周知を図る。</p> <p>県立図書館においては、引き続き県民の課題解決支援サービスの更なる充実を図るとともに、デジタル化の進展した時代に対応した新しい県立図書館の役割と機能を整理する。</p> <p>げんきプラザにおいては、引き続き各げんきプラザの特色を生かした魅力あるプログラムを展開し、体験活動事業の充実を図る。</p> <p>各県立博物館・美術館等では、多彩な体験プログラムを実施するとともに、参加者の学びを支援するボランティアの育成に取り組む。</p> <p>また、各県立博物館・美術館等が提供する学習プログラムは、館内での活動だけでなく、SNSやYouTubeを活用した動画の配信を行うなど、様々な広報媒体を通じて一層のPRを図っていく。</p>		<p>生推 文資</p>																								

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	26	学びの成果の活用の促進		
主な取組	○ 学びの成果の活用の支援			
	○ 「子ども大学」における学びの成果の活用			
	○ 社会教育関係団体等をつなぐネットワークづくり			
	○ 学びを活用した地域課題解決への支援			
担当課	生涯学習推進課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
生涯学習情報の発信	0	生涯学習情報発信サイト「生涯学習ステーション」により、指導者やイベント、講座などの生涯学習に関する情報を提供し、県民の生涯学習活動を支援する。 ・生涯学習情報の提供 指導者登録数：618人 イベント掲載数：464件 指導者紹介数：28件 ・生涯学習ステーションアクセス数：113,832件	イベント情報や指導者情報など、生涯学習に関する情報を広く県民に提供した。コロナ禍の影響で、多くの講座やイベントが中止や縮小等になった。そのため、イベント掲載数、指導者紹介数、アクセス数が大幅に減少したが、オンラインイベントの特集をするなどコロナ禍でも可能な限りの生涯学習情報の発信ができた。	生推
先進事例の発信	0	学びを通じた地域課題解決の実践事例を収集し、発信する。 さいたま市立馬宮公民館の取組（e公民館（おうちこうみんかん）「いつでも どこでも どなたでも」学べる公民館講座）を視察し、県内の社会教育関係者に情報提供した。（埼玉県公民館連絡協議会、南部地区社会教育関係委員・職員研修会）	先進的な取組について、情報提供することができた。	生推
学校地域WIN-WINプロジェクト	810	学校と企業やNPO、地域等とのマッチングを図り、実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域に生かす取組を推進する。 ○学校と地域のマッチング：8件 ○実践研究校指定：5校 ○「学校地域WIN-WINプロジェクト」フォーラム開催（オンライン） ・開催日：令和3年1月13日 ・参加者数：98人 ・内容：少人数に分かれてのグループセッション	コロナ禍で当初計画どおりに予定を実施することが困難な中、学校が学校以外の教育資源と連携・協働した活動を充実することで、生徒の主体性や思考力・自己肯定感を育成することができた。	生推
学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト	4,361	学校と地域全体が協働して子供たちの学びを支え、子供や地域住民の地元への愛着や豊かな心を育むとともに、将来を担う人材育成と地域全体の活性化を促進するモデル事業を推進する。 ○小中学校・高校教職員研修会の開催 ・開催日：令和2年9月29日 ・参加者：40人 ・内容：「地域と学校が連携する教育の効果について」 産業能率大学 教授 藤岡 慎二 氏 ○おがわ学公開授業、研究協議会の実施 ○おがわ学のテキスト作成 小中学校・高校の教員が目指す児童生徒像を実現するためのテキストを作成した。 ○おがわ学フォーラムの開催（令和3年1月29日） おがわ学フォーラムをオンラインで開催し、おがわ学の成果発表や地域の方々との意見交換を行った。	小・中学校、高校の教員が地域の方々と連携・協働して授業づくりを行い、主体的、対話的で深い学びの視点から授業改善を進めることができた。 おがわ学フォーラムでは、授業実践報告を行い、児童生徒が地域の方から学びを深めていくためには、実践を伴った学びが必要とのフィードバックがあった。今後、これらの学びの実現に取り組んでいく。 おがわ学構想委員会等での協働を通して、目指す児童生徒像を実現していくために、学校と地域がより一層連携・協働していくことができた。さらに、児童生徒の学びを深めていくための連携・協働に取り組んでいく。	生推

	<p>・参加者数 約1,900人 (小中学校、高校の児童生徒 約1,500人、町内教職員 約200人、地域の方々等 約200人)</p> <p>○おがわ学推進協議会(委員5人)5回 おがわ学の構築・実践に向けての指導・助言</p> <p>○おがわ学構想委員会(委員32人)5回 おがわ学の授業、指導計画づくりの協議 おがわ学テキストの作成についての協議 おがわ学フォーラムについての協議</p> <p>○おがわ学担当者会議(委員22人)9回 おがわ学の構築・実践に向けての授業、指導計画の企画 おがわ学テキストの作成 おがわ学フォーラムの企画、開催</p>																										
<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を地域や社会での活動に生かしている人の割合(%) [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]</p>  <table border="1" data-bbox="539 1064 1157 1153"> <tr> <td></td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>●—● 割合</td> <td>28.8</td> <td>26.8</td> <td>28.2</td> <td>23.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●...● 年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>29.8</td> <td>30.6</td> <td>31.4</td> <td>32.2</td> <td>33.0</td> </tr> </table> <p>【原因分析】 新型コロナウイルス感染症の影響で外に出て活動する機会が減ったことや、学んだ成果を生かせる場が足りなかったり、生かす方法が分からなかったりすることが年度目標を達成できなかった原因と思われる。</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	●—● 割合	28.8	26.8	28.2	23.9				●...● 年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0		<p>生推</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																				
●—● 割合	28.8	26.8	28.2	23.9																							
●...● 年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0																				
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>「生涯学習ステーション」は、県民に多くの情報を提供しており良い取組である。コロナ禍で長くなった在宅時間向けのメニューの充実や、HP上の検索機能の向上を検討していただきたい。</p> <p>「e公民館」(おうちこうみんかん)は、従来型の受講者を対象とした公民館の講座の形式を一新するものであり、WEBページでの内容も充実している。公民館に出向かなくてもオンラインで学べることは素晴らしいが、同時に「つどう」「むすぶ」についても是非オンラインで実現してほしい。現状ではYouTubeにあふれている多くの動画と、公民館として発信するものの違いが明確とはいえない。例えば子育て支援に関わる動画の視聴者が、ネット上で意見交換をしたり、情報共有ができる場を設けることも検討の余地があると思う。また、地域住民が作成した動画を募集して掲載するなど、参加型の学びを期待したい。</p>																										
<p>今後の取組</p>	<p>引き続きオンラインで行われるイベントや講座情報等、場所や時間を問わず取り組める生涯学習情報を発信し、生涯学習活動をしやすい環境を目指していく。また、ホームページの機能向上を図るほか、オンラインでのつながりづくりや、学びの成果の発表の場の提供など、県民の学びのプラットフォームになるようなサービスが実現できるか検討する。</p> <p>「学校地域WIN-WINプロジェクト」の取組を整理し、より一層県内に広めていくため、「越境×探究!未来共創プロジェクト」をスタートした。</p> <p>「学校と地域の未来を創ろう!プロジェクト」は、持続可能な組織づくりを行うとともに県内に取組を広めていく。</p>		<p>生推</p>																								